

# 指標

## 道内医師派遣システムの現況

副会長

宮本 慎一

### 1. 地域医療に関する調査

道内の医師不足の実情を把握すべく、北海道医師会では本年4月に、44郡市医師会を対象にアンケート方式による調査を行った。

質問内容は、

- ①地域の中核病院において、診療科の縮小・集約化があるか
- ②地域の中核病院における医師の動向(特に退職・離職)
- ③地域の医師確保のための方策

である。

その結果は、①については北海道全体では44郡市中23郡市(54.5%)で、「中核病院の診療科縮小がある」と回答している(図1)。なかでも道東ブロックでは、帯広市、十勝、釧路市、根室市外三郡のいず

れにおいても診療科の縮小があり、羅臼国保病院は本年4月から診療所へ移行した。また、日胆ブロックでは苫小牧市を除く、室蘭市、胆振西部、日高で産科、小児科を中心として診療科の縮小があった。留萌圏域では留萌市立病院脳神経外科医の退職に伴い、圏域内に脳卒中の急性期を担う医療機関がない状況に陥った。

②については、「医師の動きがある」は17郡市(38.6%)、「動きはない」が19郡市(43.2%)であった(図2)。特に動きが多いブロックは、日胆ブロック、空知ブロック、道東ブロックであるが、函館市、小樽市、北見市、釧路市など、地域の中心都市での医師の減少も目立つ。中央ブロックでは減少が目立った動きはないようで、札幌を中心とする道央圏への一極集中を裏付ける結果である。

③については、「医師確保対策を行っている」と回答したものは19郡市(43.2%)、「予定あり」が4郡市(9.1%)、「医師確保対策はとっていない」が21郡市(47.7%)であった(図3)。特に後志ブロックでは5郡市のすべてが対策を検討している。道東ブロックでも帯広市、十勝、釧路市が対策を立てているが、具体的には、十勝では道の地域サポートセンター事業として帯広厚生病院地域医療支援室からの派遣で対応している。釧路市では、釧路保健所、釧路市、釧路市医師会からなる連絡協議会を設置し、検討している。一方、北見市では、北見赤十字病院に委託している北見市夜間急病センターに、一次救急医療確保のために内科開業会員が支援の診療を行っており、美唄市では一次救急をも担う市立美唄病院に開業会員が協力支援をしている。

道が本年3月に、道内のすべての病院を対象に実施した調査において明らかになった、「緊急に確保が必

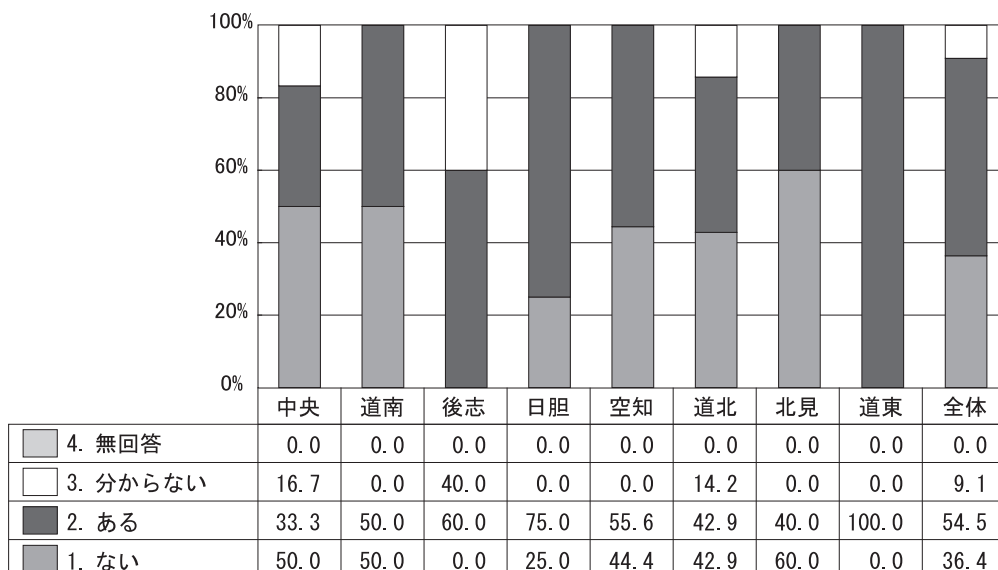


図1 診療科の縮小、集約化

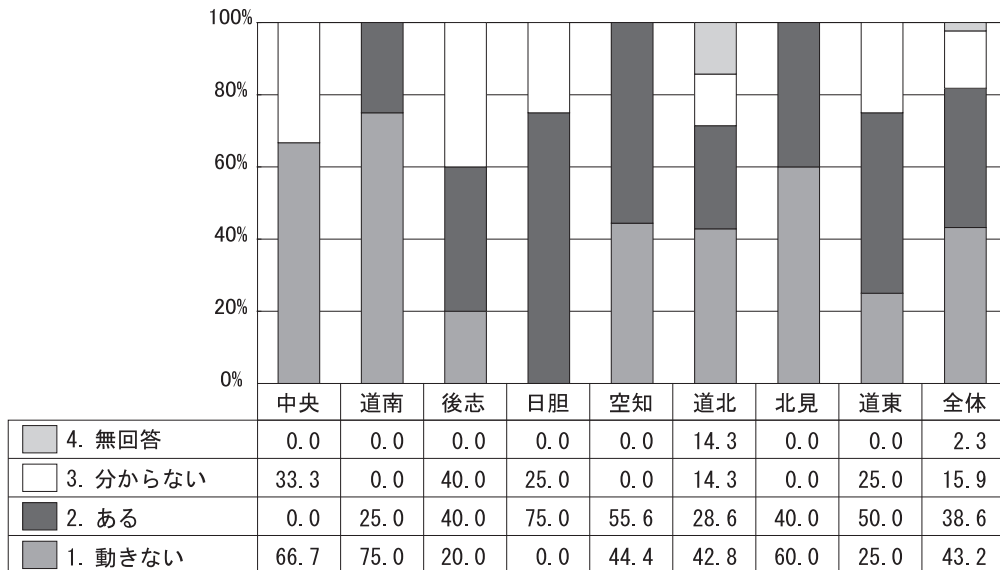


図2 医師の動向について

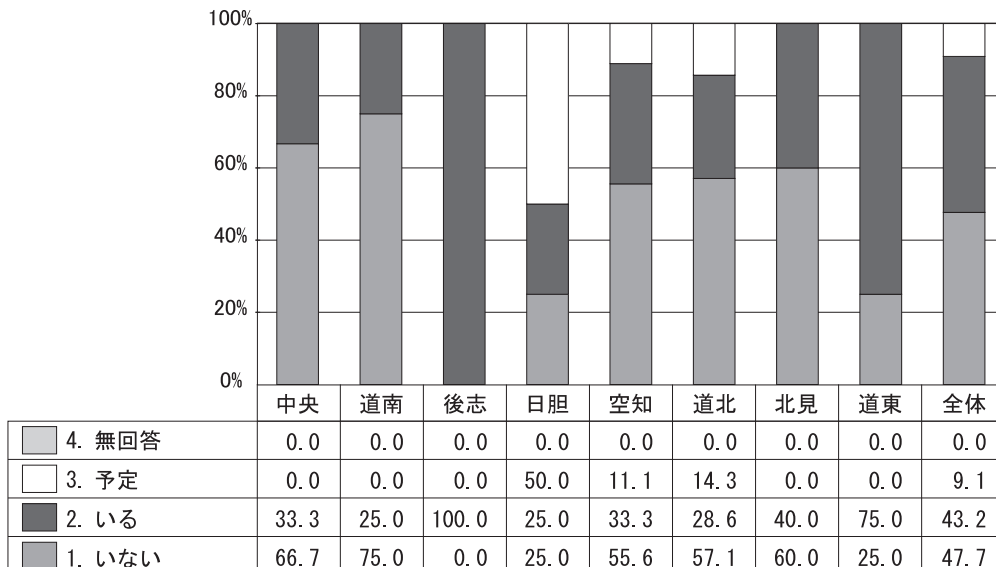


図3 地域医師確保のための対策等を行っているか

要な医師」の要望数は458名。さらに、平成19年度に実施した「医療法に基づく立ち入り検査」においては、約3割の病院が医療法に基づく医師の標準数を下回っており、標準数を確保するためには、約260名の医師が必要な状況となっている。

以上述べた結果から、地域の医師不足の実態、特に地方の中心都市でも診療科の縮小が進んでいることが明らかになった。

## 2. 主な医師確保対策の実施状況

国は医師数の不足を認めて、医師養成数の増加に方針を転換したが、現下の状況を解決する即効性はなく、大学医局からの系統的医師派遣が一層困難な

現在、第128回道医臨時代議員会において津田代議員の質問に答えたように、「落ち穂拾いの」にでも医師を確保せざるを得ないと思われる。道内の医師派遣事業の概要と平成19年度の実績を、表1に示す。これに加えて、平成20年度には、3医育大学での奨学金貸付制度の拡充と、道からの委託を受け、北海道医師会と北海道病院協会が実施主体となって開始した「緊急臨時的医師派遣事業」がある(表2)。この事業については、すでに北海道医報第1078号(平成20年7月1日付)附録にて会員に広報しており、派遣元医療機関としての登録を改めてお願いする。

表1 主な医師確保対策の実施状況－平成19年度実施事業－

(1) 常勤医師の派遣

区 分	概 要	19年度実績
① 札幌医科大学地域医療支援センター	札幌医科大学所属教員を医師確保が困難な市町村立病院・診療所に派遣する（派遣期間は4年を限度）	派遣職員数延15名
② 自治医科大学卒業医師派遣	道職員である自治医科大学卒業医師を過疎地医療機関へ一定期間派遣する	派遣職員数延15名
③ 北海道地域医療振興財団	ドクターバンクから財団に求人登録した医療機関へ紹介・斡旋する	登録医師119名 （紹介成立数27名）
女性医師バンク	女性医師の復職を支援する「北海道女性医師バンク」から医療機関へ紹介・斡旋する	登録医師16名 （紹介成立3名）
④ 道職員医師の採用・派遣	道内外の医師を道職員として採用し、地域の医療機関へ派遣する	派遣職員数1名
⑤ 国の緊急臨時的医師派遣	全国規模の病院関係団体の協力を得て、医師不足が深刻な地域の中核病院へ緊急臨時的に派遣する	派遣医師数2名
⑥ 北海道医療対策協議会 （医師派遣連絡調整分科会）	医師確保が困難な市町村立病院・診療所の医師確保のため、三育大学、市町村、民間病院、道が医師派遣の調整をする	要請数41名 （調整延数21名）

(2) 医師の短期派遣

区 分	概 要	19年度実績
⑦ 北海道地域医療振興財団 ドクターバンク事業	過疎地の市町村立医療機関に代替医師や診療協力のため派遣	登録医師数128名、 派遣日数延1,716日
熟練ドクターバンク	定年退職医師による地域医療機関への診療支援	登録医師数45名、 派遣日数延692日
⑧ 地方・地域センター病院からの 医師派遣	地方・地域センター病院から地域医療機関への医師派遣	派遣日数延982日 （地方センター病院4、 地域センター病院4）

(3) 医師の招聘活動

区 分	概 要	19年度実績
⑨ 道外医師の招聘事業	道外の医学生、医師を対象に臨床研修病院合同説明会、招聘活動	参加学生数222名
⑩ 医師の移住促進事業	地域医療視察体験による医師確保	視察体験4名

(4) 医師の養成

区 分	概 要	19年度実績
⑪ 総合医養成支援事業	卒後臨床研修終了後の医師を対象とする総合医養成のための後期研修を行う病院に対する補助	研修実施人数11名 （継続6名、新規5名）
⑫ 指導医養成事業	臨床研修病院の医師を対象とする講習会	受講者数37名

表2 主な医師確保対策の実施状況－平成20年度新規事業－

区 分	概 要	20年4月末実績
① 医育大学の定員増	国の医師確保対策に基づき、15名の医育大学定員増	平成19年度300名 平成20年度305名 平成21年度315名
② 医師奨学金貸付事業	地域枠入学者を対象に、地域医療機関勤務を条件に奨学金の貸付	札幌医科大学 特別推薦入学者8名
③ 医師研修費貸付金事業	医育大学大学院生・臨床研修医を対象に地域医療機関勤務を条件に研修費の貸付	貸付申込者数2名
④ 緊急臨時的医師派遣事業	医師不足地域の自治体病院等へ、北海道医師会・北海道病院協会の協力のもとに、派遣可能な医療機関から緊急に医師を派遣する	平成20年9月10日現在 派遣要請医療機関数 16医療機関 診療科数 22科 派遣元登録医療機関数 20件、18医療機関